

命を守るために ～救急の最前線～

私たちの生活様式をガラリと変えた新型コロナウイルス感染症。命を守る救急の現場でもさまざまな対応が行われ、よりスピーディーで、より安全な搬送につなげています。

今回は「いざ」というときに慌てず、安心して救急要請できるように、「119」のその先を紹介します。

変化する救急隊の感染症対策と救急活動

119通報を受けた消防指令管制員が電話でしっかり症状をヒアリングし、新型コロナウイルス感染の可能性を見極めます。「感染疑いあり」と判断した場合は、これまでの感染症対策からさらに強化した防護服やマスク等を着用して救急隊員が出勤。また、救急車内にも患者と隊員を感染リスクから守るさまざまな取り組みを導入しています。



消防指令管制室



情報司令課 消防司令 **朝倉 宏昭**

聞き取り項目を増やし対応

新型コロナウイルスの感染拡大により、電話での聞き取り内容を変更しています。現在は急病に限らず、けがや事故でも発熱や呼吸器症状の有無を細かく伺います。これは現場へ向かう救急隊へ事前に患者さんの状態を正確に伝えることで、救急隊員を感染から守るためです。短い時間の中でのなるべく多くの情報を聞き取り、救急隊が現場をイメージできるように正確に伝えることは簡単なことではありませんが、日々心がけて対応しています。

患者さん本人の通報が難しい場合

状況によっては、ご家族など発見者が119番する場合もあると思います。そういった場合、救急隊が到着するまでの間に応急手当の指導を口頭で行うこともあります。心臓マッサージの方法、AEDの使い方、止血方法、やけどの対処法など、電話での指示に従って落ち着いて行動してください。

いち早い出勤のために、知っておきたいポイント

火事ですか？救急ですか？場所はどこですか？

まずは「火事です」、「救急です」など、何が起きたのか、また、「場所」はどこなのかをはっきり伝えてください。後はできるだけ落ち着いて係員の質問に答えてください。

慌てず落ち着いて

緊急通報が「119」に決まった時代、電話はダイヤル式。早く回せる「1」と、ダイヤルが戻るまでに一呼吸して落ち着けるように「9」を組み合わせています。今はプッシュフォンが主流ですから、通報前に深呼吸することを心がけてください。

住所を伝える

住所は市区町村から番地や世帯主まで正確に詳しく教えてください。屋外の場合は目標になる建物、交差点、公園などを探るのがポイントです。

聞かれた質問に答える

落ち着いて係員の質問に答えることが最も効率の良い通報です。結果的に聞き取り時間短縮と、スピーディーな出勤につながります。

消防局の ココがすごい！

通報から到着までの時間が、**全国平均より1分17秒も早い！**

平成30年の全国平均8分42秒に対して、本市の所要時間は7分43秒でした。また、去年はさらなる短縮を実現し、平均所要時間は7分25秒になりました。

119通報に関する、素朴な疑問

救急車を呼んだときにサイレンを鳴らさず来てもらえる？

最近は「サイレンを鳴らさないで」と言われることもありますが、救急車は道路交通法で現場に向かう際には「サイレンを鳴らし、赤色の警光灯をつけなければならない」規定があります。

ぜひ市民の皆さんにはその点も理解いただきたいと思います。

固定電話と携帯電話、どちらからの電話がスムーズ？

それぞれメリットとデメリットがあります。固定電話からの通報は正確な住所が判明するので、現場に到着するまでの時間を短縮することができます。一方、患者と離れた位置に電話がある場合、状況の確認がしづらいというデメリットがあります。

携帯電話は救急車が到着するまでの対処法を係員から伝えることができますが、正確な位置を確定できませんので通報時に詳しく伝えることが必要です。

どちらの電話の場合も、まず優先するのは、救急車が向かう場所を正確に伝えること。外出先の場合は、近くにある建物や電柱に書かれた番地を教えてください。自宅であれば、電話のそばに郵便物を置くだけでもいざというときの備えになります。